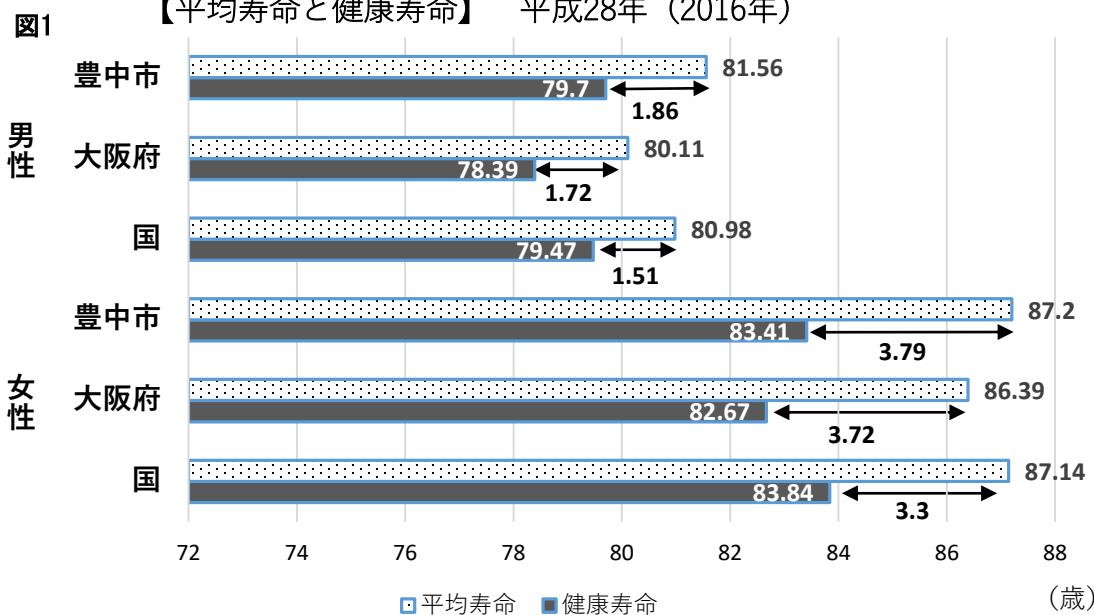


目的

65歳以上の人口がピークを迎える見込みの令和22年（2040年）に、介護・医療ニーズの増大と担い手の確保が大きな問題となります。健康寿命の延伸に向け、社会変化に対応した健康医療施策を、多様な主体と連携し推進するための指針とします。

目標

令和22年度（2040年度）において、平成28年（2016年）時点より平均寿命と健康寿命の差を縮小します。

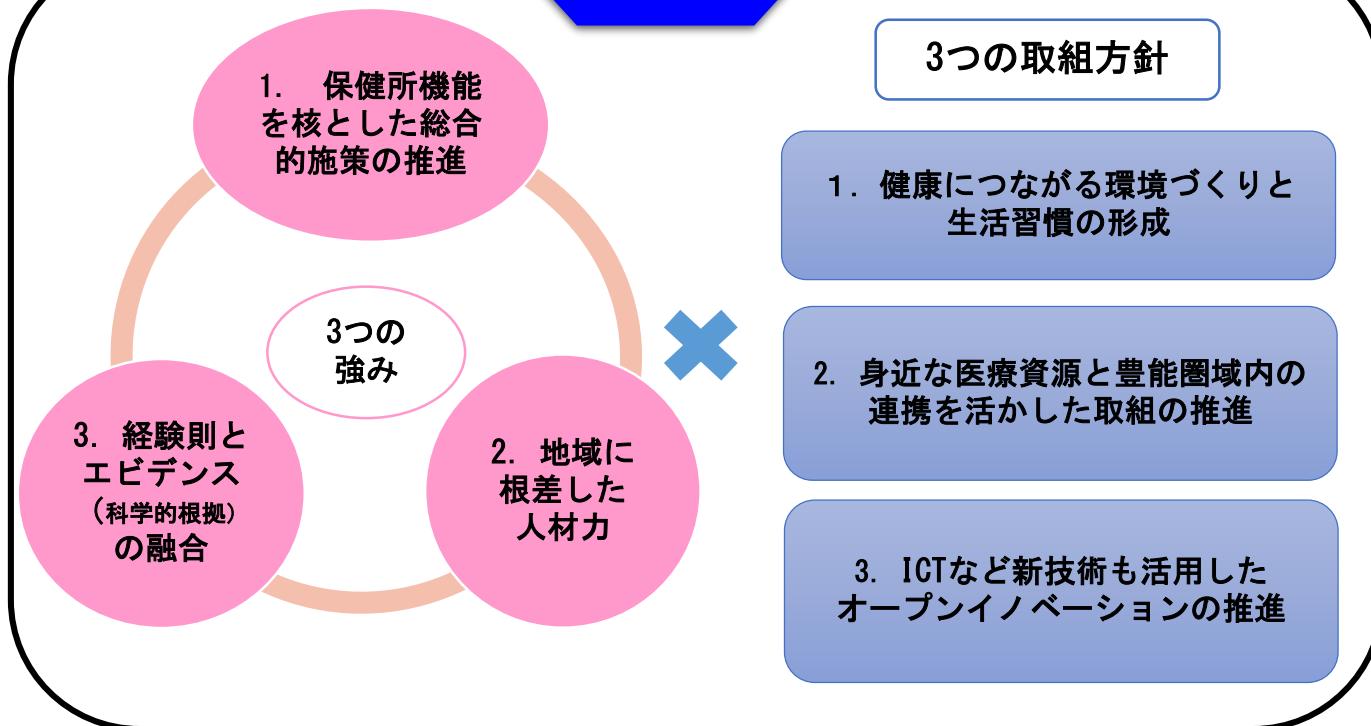


「健康でない期間」

健康寿命の定義は、平均寿命と健康寿命の差を不健康な期間としています。本方針では、この不健康な期間のことを「健康でない期間」と表します。

出典：平均寿命 厚生労働統計「市区町村別生命表」  
健康寿命 平成24年度（2012年）厚生労働科学研究補助金による健康寿命における将来予想と生活習慣病対策の費用対効果に関する研究班による健康寿命の算定プログラムに基づき算出

戦略



重点プロジェクト『いきいき血管プロジェクト』

【日本人の死因】  
がん、循環器疾患、糖尿病など生活習慣病が約6割。  
死亡リスク要因は、喫煙・運動不足など個人の生活習慣と関連するものが上位。

【本市の死因割合】  
循環器疾患（心疾患・脳血管疾患など）・糖尿病が約3割。  
→動脈硬化などの血管の変化が関係

いきいき血管プロジェクトによる取組

血管を若々しく保つことは全身の健康につながることから、「いきいき血管プロジェクト」を掲げ、毎年主要テーマを設け、市民・医療機関・公益活動団体・民間事業者・研究機関等・他自治体など多様な主体と連携し取組を広げます。

